

昭和 48 年 11 月 25 日

水面に浮ぶ弾性平板の運動
 (二次元, 有限水深の場合)

別紙に別

	頁
序言	0
1. 運動ポテンシャル	1
2. 積分定理	4
3. 力について	5
4. 運動方程式	9
5. 境界値問題	13

附録 A	核函数	A-1-8
B	梁の撓み振動	B-1-6

序

有限水深の次元動揺問題が無限水深の場合とどの程度異なるかについて以下に考察して見た。

結論的には本格的に何等変らないと言えよう。

これは浅水についても同じである*。

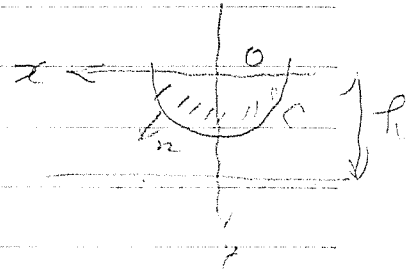
弾性平板とことわつたのはあまり意味がない。たゞその運動方程式を書き下して見ただけである。

つまりこのような場合も士境界条件を適當な周数系に展開すれば"剛体的な運動の場合と全く同様に運動方程式が立てられる"と言ふ事である。

* "浅い水面上を浮ぶ"平板の問題

1. 速度ポテンシャル

圧力, 速度ポテンシャル, 表面変位
を仮定.



$$\left. \begin{aligned} P(x, y) e^{i\omega t}, \\ \varphi(x, y) e^{i\omega t}, \\ A(x) e^{i\omega t}, \end{aligned} \right\} (1)$$

とおくと

$$\frac{1}{\rho} P(x, 0) = i\omega \varphi(x, 0) + gA(x), \quad (2)$$

$$\varphi_y(x, 0) = -i\omega A(x), \quad (3)$$

水面条件は $K\varphi(x, 0) + \varphi_y(x, 0) = \frac{\omega}{ig} P(x), \quad (4)$

水底条件は $\varphi_y(x, h) = 0, \quad (5)$

振動の振幅を X_j として それに F_j ポテンシャルを φ_j のようにおき それを次のように正規化しておこう。

$$\varphi_j(x, y) = i\omega X_j \phi_j(x, y), \quad (6)$$

上の境界条件は

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial \varphi_j}{\partial n} &= -i\omega X_j w_j(x, y), \\ \frac{\partial \phi_j}{\partial n} &= -w_j(x, y), \end{aligned} \right\} \text{on } C, \quad (7)$$

とする。

(5) に 対応して $P, \gamma, \text{ および } \tau$ に

$$\left. \begin{aligned} P_j(x, y) &= \rho g X_j P_j(x, y), \\ A_j(x) &= X_j \gamma_j(x), \end{aligned} \right\} (8)$$

とおくと (5), (3), (4) は

$$\phi_j(x, 0) = -\psi_j(x), \quad (9)$$

$$K \phi_j(x, 0) + \psi_j(x, 0) = -\psi_j(x, 0), \quad (10)$$

となる。 $\phi_{jy}(x, h) = 0, \quad (11)$

x の正方向からの入射波を考えると

$$A_0(x) = a e^{ik_0 x}, \quad (12)$$

k_0 は

$$K = k \tanh kh, \quad (13)$$

の実根である。

(10) のよき振幅 a の正則化ポテンシャルは

$$\phi_0(x, y) = \frac{iga \cosh k_0(h-y)}{\omega \cosh kh} e^{ik_0 x}, \quad (14)$$

となる。

よって $\phi_0(x, y) = \frac{\cosh k_0(h-y)}{\cosh kh} e^{ik_0 x},$

$$\frac{iga}{\omega} \phi_0(x, y) = \psi_0(x, y),$$

$$\psi_0(x) = K \phi_0(x, 0)$$

} (15)

となる。

散乱ポテンシャルはやはり

$$\phi_d(x, y) = \frac{iga}{\omega} \phi_d(x, y), \quad (16)$$

x の正則化すると境界条件は

$$\frac{\partial}{\partial n} (\phi_0 + \phi_d) = 0 \quad \text{on } C, \quad (17)$$

となる。

従って $x_0 = x_d = a/k.$

Q点で対数特異点を持ち (10)(11) を満足する (但し $p=0$)
 関数 $S(P, Q)$ ($P \equiv (x, y), Q \equiv (x', y')$) は 付録 A 12
 示されているが, それを使うと (18)

$$\phi(P) = \int_c \{ \phi_n(Q) S(P, Q) - \phi(Q) S_n(P, Q) \} dS(Q), \quad (18)$$

と表わされる。

特に水面の (1, -1) の上の圧力分布の場合 (10)

により

$$\phi(P) = - \int_{-1}^1 p(x') S(P, x') dx', \quad (19)$$

で与えられる。

さて S は $|x-x'| \gg 1$ で A (25) より

$$S(P, Q) \xrightarrow{|x-x'| \gg 1} iD \frac{\cosh k_0(h-y) \cosh k_0(h-y')}{\cosh^2 k_0 h} e^{-ik_0|x-x'|}, \quad (20)$$

$$D = \frac{-k_0 h}{(k^2 - k_0^2) h^2 - k h} = \sqrt{[\tanh k_0 h + k_0 h \operatorname{sech}^2 k_0 h]}$$

よるから ϕ は

$$\phi(P) \xrightarrow[x \gg 1]{x \ll -1} -iD H^\pm(k_0) \frac{\cosh k_0(h-y)}{\cosh k_0 h} e^{\mp i k_0 x}, \quad (21)$$

$$H^\pm(k_0) = - \int_c (\phi_n - \phi \frac{\partial}{\partial n}) \frac{\cosh k_0(h-y)}{\cosh k_0 h} e^{\pm i k_0 x} dS, \quad (22)$$

$$H^\pm(k_0) = \int_{-1}^1 p(x) e^{\mp i k_0 x} dx, \quad (23)$$

この時

$$\left. \begin{aligned} \eta(x) &\longrightarrow -iKD H^\pm(k_0) e^{\mp i k_0 x} \\ A_j(x) &\longrightarrow -iKX_j D H^\pm(k_0) e^{\mp i k_0 x} \end{aligned} \right\} (24)$$

2. 積分定理.

今2つのポテンシャル ϕ_1, ϕ_2 を考えるとグリーン-2の定理により直ちに

$$\int_C \phi_1 \frac{\partial \phi_2}{\partial n} ds = \int_C \phi_2 \frac{\partial \phi_1}{\partial n} ds, \quad (1)$$

なる関係がある事がわかる。

又圧力分布では p_1 に ϕ_1, p_2 に ϕ_2 が対応するとすると §1 (10) により

直ちに

$$\int_{-1}^1 p_1 \frac{\partial \phi_2}{\partial y} dx = \int_{-1}^1 p_2 \frac{\partial \phi_1}{\partial y} dx, \quad (2)$$

かえらぬ。

$$\int (\phi_1 \frac{\partial \phi_2}{\partial n} - \phi_2 \frac{\partial \phi_1}{\partial n}) ds$$

なる積分を考えると同じくグリーン-2の定理により無限遠方の検査面の積分が零で §1 (21) のより

$$\begin{aligned} \int_0^h \cosh^2 k_0(h-y) dy &= \frac{1}{2} \int_0^h [1 + \cosh 2k_0(h-y)] dy \\ &= \frac{1}{2} \left[y - \frac{\sinh 2k_0(h-y)}{2k_0} \right] = \frac{1}{4k_0} [2k_0 h + \sinh 2k_0 h] \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{\cosh^2 k_0 h} \int_0^h \cosh^2 k_0(h-y) dy &= \frac{1}{2k_0 h} [k_0 h \operatorname{sech}^2 k_0 h + \tanh k_0 h] \\ &= 1/[2k_0 h D], \quad \dots (3) \end{aligned}$$

となる。

$$\int_C \left[\phi_1 \frac{\partial \phi_2}{\partial n} - \phi_2 \frac{\partial \phi_1}{\partial n} \right] ds = i \frac{D}{2h} \left[H_1^+(k_0) \overline{H_2^+(k_0)} + H_1^-(k_0) \overline{H_2^-(k_0)} \right], \quad (4)$$

同様にして

$$\int_{-1}^1 \left(p_1 \frac{\partial \phi_2}{\partial y} - p_2 \frac{\partial \phi_1}{\partial y} \right) dx = \frac{D}{2iKh} [\quad \quad], \quad (5)$$

3. カに於て.

i -mode の運動による j -mode の一般力矩

$$\bar{F}_{ij} = - \int_c P_i(x,y) w_j(x,y) ds, \quad \dots (1)$$

と書こう。

この圧力には静水圧を含ませない。

$$P_i(x,y) = i\rho\omega \phi_i(x,y) = -\rho\omega^2 X_i \phi_i(x,y), \quad \dots (2)$$

と理解し、この時 (1) は

$$\bar{F}_{ij} = \rho\omega^2 X_i f_{ij}, \quad \dots (3)$$

$$f_{ij} = \int_c \phi_i w_j ds, \quad \dots (4)$$

となる。

圧力分布の時は §1 (10) により。

$$f_{ij} = -\frac{1}{K} \int_c \phi_{iy} w_j dx - \frac{1}{K} \int_c \phi_{ix} w_j dx, \quad \dots (5)$$

となる。

特に波による力は

$$E_j = - \int_c (P_0 + P_d) w_j ds, \quad \dots (6)$$

である。

$$E_j = \rho g a e_j, \quad \dots (7)$$

$$e_j = \int_c (\phi_0 + \phi_d) w_j ds, \quad \dots (8)$$

となる。

昭和 年 月 日

圧力分布を以て §1 (16) と (17) により

$$e_j = -\frac{1}{K} \int_{-1}^1 \{p_0 + p_d\} w_j dx, \quad (9)$$

又 §2 の定理より

$$f_{ij} = -\int_c \phi_i \phi_{jn} ds = -\int_c \phi_j \phi_{in} ds = f_{ji}, \quad (10)$$

$$\int_{-1}^1 p_i w_j dx = f_{ij}^* \quad (11)$$

とおくと

$$f_{ij}^* = f_{ji}^* \quad (12)$$

$$\int_c \phi_d w_i ds = -\int_c \phi_d \phi_{jn} ds = -\int_c \phi_j \phi_{dn} ds = \int_c \phi_j \phi_{on} ds$$

よって §1 (22) 式により

$$e_j = \int_c (\phi_j \phi_{on} - \phi_0 \phi_{jn}) ds = -H_j^+(k_0), \quad (13)$$

なる Haselinda の関係を得る。

これは圧力分布を以て同一式により。

次に w_j : real

としておくと §2 (4) により

$$\overline{f_{ji}} - f_{ij} = \overline{f_{ij}} - f_{ij} = \frac{iD}{2R} [H_i^+ \overline{H_j^+} + H_i^- \overline{H_j^-}], \quad (14)$$

同様に

$$\overline{f_{ij}^*} - f_{ij}^* = \frac{D}{2iKR} [\quad \quad \quad], \quad (15)$$

さて C が左右対称な場合 対称運動では H_j は §1 (22) から

$$H_j^+(k_0) = H_j^-(k_0), \quad (16)$$

又 反対称運動では

$$H_j^+(k_0) = -H_j^-(k_0), \quad (17)$$

となる。

今 (14) は i, j を入れかえても 相互性から同じになるので

$$H_i^+ \overline{H_j^+} + H_i^- \overline{H_j^-} = H_j^+ \overline{H_i^+} + H_j^- \overline{H_i^-}, \quad (18)$$

これに (16), (17) を代入すると

$$H_i^+ \overline{H_j^+} = H_j^+ \overline{H_i^+}, \text{ or } \frac{\overline{H_j^+}}{H_j^+} = \frac{\overline{H_i^+}}{H_i^+}, \quad (19)$$

をうる。なお i, j 域 変に 対称 又は 反対称 である場合は"なる"なる。

よって §2 (4) において $\phi_1 = \phi_a, \phi_2 = \phi_b$ を代入すると

$$\begin{aligned} & \int_C (\phi_a \overline{\phi_{bn}} - \overline{\phi_b} \phi_{an}) ds = \dots \\ & = \int_C [(\phi_a + \phi_b) \overline{\phi_{bn}} - (\phi_a \overline{\phi_{bn}} - \overline{\phi_b} \phi_{an})] ds \\ & = H_j^+(k_0) - \overline{H_j^-(k_0)} = \frac{iD}{2\hbar} [H_a^+ \overline{H_j^+} + H_a^- \overline{H_j^-}], \quad (20) \end{aligned}$$

よって 対称運動では (16) により

$$H_j^+ - \overline{H_j^+} = \frac{iD}{2\hbar} [H_a^+ + H_a^-] \overline{H_j^+}, \quad (21)$$

反対称運動では (17) により

$$H_j^+ + \overline{H_j^+} = \frac{iD}{2\hbar} [H_a^+ - H_a^-] \overline{H_j^+}, \quad (22)$$

よす

$$H_d^{\pm}(b_0) = \int_C (\phi_d \phi_{0n}^{\pm} - \phi_0^{\pm} \phi_{dn}) dS, \quad (23)$$

但し $\phi_0^+ \equiv \phi_0, \phi_0^- \equiv \bar{\phi}_0,$

と(20)においてさらに $j = d$ とおくと

$$\int_C (\phi_d \bar{\phi}_{dn} - \bar{\phi}_d \phi_{dn}) dS = \int_C (\bar{\phi}_d \phi_{0n}^+ - \phi_d \phi_{0n}^-) dS.$$

$$= \int_C [(\bar{\phi}_d \phi_{0n}^- - \bar{\phi}_0^- \phi_{dn}) - (\phi_d \phi_{0n}^- - \phi_0^- \phi_{dn})] dS.$$

何と云はし" $\phi_0^- \phi_{dn} - \bar{\phi}_0^- \phi_{dn} = \phi_0^- \phi_{0n}^+ - \phi_0^- \phi_{0n}^- = \phi_0^+ \phi_{0n}^- - \phi_0^- \phi_{0n}^+$

となり

$$\int_C (\phi_0^+ \phi_{0n}^- - \phi_0^- \phi_{0n}^+) dS = 0.$$

この左辺の積分は無窮遠方の検査面の積分とする事が出来るが左方の面のそれは右方のそれが打ち消し合うからである。

よって

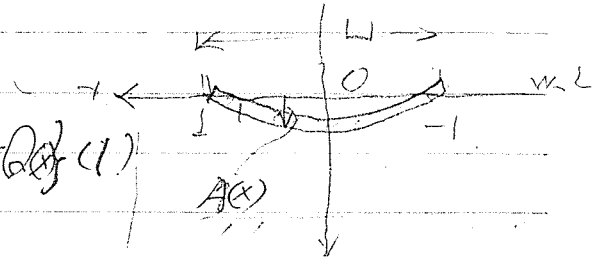
$$H_d^+(b_0) - H_d^-(b_0) = \frac{iD}{2\pi} [H_d^+ \bar{H}_d^+ + H_d^- \bar{H}_d^-], \quad (24)$$

を得る。

4. 運動方程式

運動方程式は、

$$EI \frac{d^4 A(x)}{dx^4} - m\omega^2 A(x) = -\{P(x) + Q(x)\} \quad (1)$$



EI は曲げ剛性, m は梁の質量とする。

また $P(x)$ には 静止時の浮力を含めないものとする。 $Q(x)$ は外力

今 相当な振幅 X により、(1) のように正規化すると

$$\left. \begin{aligned} P(x) &= \rho g X p(x), & Q(x) &= \rho g X q(x) \\ A(x) &= X \eta(x) \end{aligned} \right\} \quad (2)$$

$$\varepsilon \frac{d^4 \eta(x)}{dx^4} - \alpha K \eta(x) = -\{p(x) + q(x)\} \quad (3)$$

$$\varepsilon = \frac{EI}{\rho g}, \quad \alpha = \frac{m}{\rho}, \quad K = \frac{\omega^2}{g} \quad (4)$$

とかけ (3), (4) により

$$\left. \begin{aligned} \phi(x, 0) &= -\eta(x) \\ K\phi(x, 0) - \eta(x) &= -p(x) \end{aligned} \right\} \quad (5)$$

これから $p(x)$ を消去すると

$$\varepsilon \frac{d^4 \eta(x)}{dx^4} - \alpha K \eta(x) + \eta(x) = K\phi(x, 0) - q(x), \quad (6)$$

を得る。

したがって (3) と (5) あるいは (5) と (6) の聯立方程式を解いて解が求められるようにする。

$q(x)$ は強制力揺動の場合例えば原点で上下に集中強制力を加えるならば

$$q(x) = \delta(x), \quad (7)$$

となり、 x の正方向からの入射波によって重畳するならば

$$f(x) = f_0(x) + f_d(x), \dots (8)$$

但し $\lambda = a/k$,

となる。

(5)の邊の式は (19)に より

$$f(x) = f(x) - k \int_{-1}^1 f(x') S(x, 0; x', 0) dx', (9)$$

かゝりから、これと(3)から ρ , 又は η を消去するとかなり複雑な微積分方程式をうる。

左の梁端自由端を有するものとするならば

$$\frac{d^2 \eta}{dx^2}(x) = \frac{d^3 \rho}{dx^3}(x) = 0 \text{ for } x = \pm 1, (10)$$

形式的には次のように解ける。

まず
$$\eta(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n U_n(x), \dots (11)$$

但し
$$\begin{aligned} U_0(x) &= 1/\sqrt{2} \\ U_1(x) &= x\sqrt{3/2} \end{aligned} \quad (12)$$

$n \geq 2$ は

$$\varepsilon \frac{d^4 U_n}{dx^4} - \alpha K_n U_n = 0, \dots (13)$$

の解とする。(附録B)

$K_n = \omega_n^2/\varepsilon$, ω_n は固有円振動数である。

又
$$\int_{-1}^1 U_n(x) U_m(x) dx = \delta_{n,m}, \dots (14)$$

と正規化しておく。

又 $U_n(x)$ に対する (9) の解を $P_n(x)$ としよう。

そうすると (3) 式は

$$\alpha \sum_{n=0}^{\infty} (K_n - k) C_n U_n(x) = - \sum_{n=0}^{\infty} C_n P_n(x) - f(x), (15)$$

となる。

よって、 $u_n(x)$ をかけて積分すると

$$\alpha(K_n - K)C_n = - \sum_{m=0}^{\infty} C_m \int_{-1}^1 P_m(x) u_n(x) dx - \int_{-1}^1 q(x) u_n(x) dx, \quad (16)$$

§3 (14) の記法を使えば

$$\alpha(K_n - K)C_n + \sum_{m=0}^{\infty} C_m f_{m,n}^* = - \int_{-1}^1 q(x) u_n(x) dx, \quad (17)$$

とる) f と (17) を代入するは

$$\int_{-1}^1 q(x) u_n(x) dx = (H_n^+), \quad (18)$$

(8) を代入するは §3, (9), (13) により

$$\int_{-1}^1 q(x) u_n(x) dx = \int_{-1}^1 (P_0 + P_2) u_n(x) dx = K H_n^+(k_0), \quad (19)$$

を得る。

従って $f_{m,n}^*$, H_n^+ がわかっているとすれば C_n は (17) から求められる。

強励(動)系の場合

この時外に出て行く波の振幅は §1 (24) により

$$KH^{\pm}(k_0) = K D \sum_{n=0}^{\infty} C_n H_n^{\pm}(k_0), \quad (20)$$

溶液中動揺の場合にはこれに更に散乱波も入射波が加わるので x の正方向への反射波の振幅は

$$R = i\alpha D \left[H_0^+(k_0) + \sum_{n=0}^{\infty} C_n H_n^+(k_0) \right], \quad \text{for } x \rightarrow \infty, \quad (21)$$

x の負方向の振幅は入射波も含めて

$$T = \alpha - i\alpha D \left[H_0^-(k_0) + \sum_{n=0}^{\infty} C_n H_n^-(k_0) \right], \quad \text{for } x \rightarrow -\infty, \quad (22)$$

と与えられる。

§3 同様

$$R+T = a - i\alpha D \left[H_a^+ + H_a^- + \sum_{n=0}^{\infty} c_n \{ H_n^+ + H_n^- \} \right],$$

$$T-R = a - i\alpha D \left[H_a^- - H_a^+ + \sum c_n \{ H_n^- - H_n^+ \} \right].$$

とある。

n が偶数奇数に依りて、運動は反対、反対称とあるから、
§3 (16), (17), (21), (22) に依り

$$R+T = a - i\alpha D \left[\frac{H_j^+ - H_j^-}{i D H_j^+} + 2 \sum_{n=0}^{\infty} c_n H_{2n}^+ \right], \quad j=2j \quad (23)$$

$$T-R = a - i\alpha D \left[\frac{H_j^+ + H_j^-}{i D H_j^+} - 2 \sum_{n=0}^{\infty} c_n H_{2n+1}^+ \right], \quad j=2j+1 \quad (24)$$

j は任意の値でよい。

5. 境界値問題

圧力分布に対する境界値問題は (7) (10) による

$$w(x) = -\phi_y(x, 0) = p(x) + K\phi(x, 0), \quad (17)$$

で無限水深の場合と同様である。(54 (9))

よって

$$\phi(x, 0) = -\int_{-1}^1 p(x') S(x, x') dx', \quad (12)$$

1 から流小関数を導入すると (C.F.A)

$$\psi(x, 0) = -\int_{-1}^1 p(x') T(x, x') dx', \quad (3)$$

$\phi_y = -\psi_x$ であるから (1) より

$$w(x) = \psi_x(x, 0), \quad (4)$$

よって

$$W(x) = \psi(x, 0) \quad (5)$$

$$W(x) = \int_0^x w(x) dx + \text{Const.} \quad (6)$$

(5) 式の形をたいて T は有限積分の関数であるから数値計算が楽である。

又 (6) の定数は対応する齊次解は平板の w に対応する解と考えられる。

さて (5) を完部と虚部に分けてよくと散乱ポテンシャルと共振ポテンシャルの間には (2) のような関係があるので簡単に定数は (2) に負の値である。

この場合前節で見たように w の直交系 u_j に対する
 本での解が 必要であるがその特徴的ポテンシャル
 は更にここで表わせるので 系を散乱ポテン
 シヤルは 解く 必要が ない 事になる。

即ち 今 附録 A の $u_j^{(4)}(x) = \lambda_j u_j(x)$ と u_0, u_1
 の解を $p_j(x)$ とすると 散乱ポテンシャルは

$$w_d = -\frac{\partial}{\partial y} \phi_d = + \frac{\partial}{\partial y} \phi_0 = -k_0 \tan h k_0 y e^{ik_0 x} = -K e^{ik_0 x} \quad (7)$$

であるが w_d は $u_n(x)$ に 次のように 展開 出来る。

$$w_d = -K \sum_{j=0}^{\infty} I_j u_j(x) \quad (8)$$

$$I_j = -\frac{1}{K} \int_{-1}^1 w_d u_j dx = \int_{-1}^1 u_j(x) e^{ik_0 x} dx \quad (9)$$

ここに I_j は 定積分 積分 により $u_j''(\pm 1) = u_j'''(\pm 1) = 0$ と 考慮 する

$$I_j = -\frac{k_0^2}{\lambda_j - k_0^2} \int_{-1}^1 u_j'' e^{ik_0 x} dx \quad (10)$$

$$I_j = \frac{k_0^2}{\lambda_j - k_0^2} \left[(ik_0 u_j - u_j') e^{ik_0 x} \right]_{-1}^1 \quad (11)$$

よって

$$p_d(x) = -K \sum_{j=0}^{\infty} I_j p_j(x) \quad (12)$$

よって

$$\int_{-1}^1 p_d u_j dx = \int_{-1}^1 p_d w_d dx = -K \int_{-1}^1 p_j e^{ik_0 x} dx = -K H_j^+(k_0)$$

故に §2 (14) 式より

$$H_j^+(k_0) = \sum_{i=0}^{\infty} I_{ij} f_{ij}^* \quad , \quad \dots \quad (13)$$

従って $f_{ij}^* = \int_{-1}^1 p(x, \xi) u_j dx = f_{ji}^* \quad (14)$

又従って

$$p_i(x) = \sum_{j=0}^{\infty} f_{ij}^* u_j(x) \quad , \quad \dots \quad (15)$$

右の関係を考慮して $p(x)$ を $u_j(x)$ に展開して解いておけば便利である。

なお §2 (15) の f_{ij} は

$$f_{ij} = + \frac{\delta_{ij}}{k} - \frac{1}{k} f_{ij}^* \quad , \quad \dots \quad (16)$$

となる。

又 (10) からわかるように

$$p(x) = u_0(x) + \frac{k_0^2}{\lambda_j^2} u_0''(x) \quad , \quad \dots \quad (17)$$

左の圧力分布は存在しないので $k_0/\sqrt{\lambda_j} \ll 1$ ならば $p \approx u_0$ とするから $p_i (i \geq 2)$ は何か小さいと推定される。

又 $p(x) = \delta(x-\xi) = \sum_{n=0}^{\infty} u_n(x) u_n(\xi) \quad , \quad (18)$

右側の圧力は $p(x, \xi) = \sum_{n=0}^{\infty} u_n(\xi) p_n(x) = p(\xi, x) \quad (19)$

$$\therefore \int_{-1}^1 p(x, \xi) u_n(x) dx = p_n(\xi) \quad , \quad (20)$$

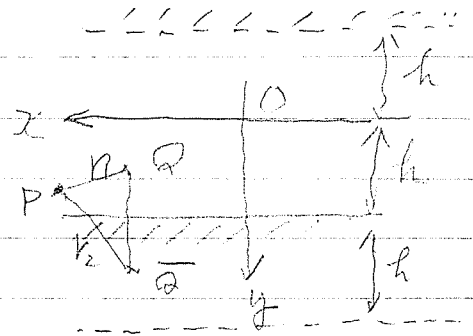
$$\therefore f_{n,m}^* = \int_{-1}^1 \int_{-1}^1 p(x, \xi) u_n(x) u_m(\xi) dx d\xi \quad (21)$$

別録 A 核関数

$$\left(\frac{\partial}{\partial y} + K\right) S(p, Q) = 0, \text{ for } y=0 \quad (1)$$

$$\frac{\partial}{\partial y} S(p, Q) = 0 \text{ for } y=h, \quad (2)$$

$$P \equiv (x, y), \quad Q \equiv (x', y')$$



(1), (2) を満足し $P=Q$ の対数的特異点を持つ関数 S を求めよう。

先づ

$$S(p, Q) = \frac{1}{2\pi} \log(r_1 r_2) + \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} F(k) e^{-kh} \cosh k(h-y) \cosh k(h-y') \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \quad (3)$$

とおいておく。 $r_1 = PQ, \quad r_2 = P\bar{Q}$

そして (1) に $F(k)$ を決めよう。

さて

$$\frac{1}{2\pi} \frac{\partial}{\partial y} \log r_1 = -\frac{1}{2\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(y-y')} \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \text{ for } y' > y,$$

$$\frac{1}{2\pi} \frac{\partial}{\partial y} \log r_2 = -\frac{1}{2\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(h-y-y')} \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \text{ for } (y+y') < h,$$

であるから形式的に

$$\frac{1}{2\pi} \log r_1 = -\frac{1}{2\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(y-y')} \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \text{ for } y' > y,$$

$$\frac{1}{2\pi} \log r_2 = -\frac{1}{2\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(h-y-y')} \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \text{ for } y+y' < h,$$

この積分は下限を 0 とすると存在しないので適当な値で正めて安置しなければならぬが議論の結果には変わりはないのでとりあえずこの儘使い後で安置する。

これらの関数 (3) 式に入れて (1) の条件を満足さす。

$$\frac{1}{2\pi} \log r_1 r_2 = -\frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(h-y) + ky} \cosh k(h-y') \cos k(x-x') \frac{dk}{k},$$

$$\frac{1}{2\pi} \frac{\partial}{\partial y} \log r_1 r_2 = -\frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(h-y) + ky} \cosh k(h-y') \cos k(x-x') \frac{dk}{k},$$

故、

$$S_y + K S' = \int_0^{\infty} \frac{dk}{k} e^{-k(h-y) + ky} \cosh k(h-y') \cos k(x-x') \times$$

$$\times \left[-(k+K) e^{ky} - \{k \sinh k(h-y) - K \cosh k(h-y)\} F(k) \right],$$

と左から $y=0$ とし (1) から成立つ等式は

$$F(k) = (k+K) / [K \cosh kh - k \sinh kh], \quad (4)$$

であることはよい。

このまゝでは (3) の右辺第 2 項の積分は $h=0$ と積分出来ないので

$$\begin{aligned} \frac{k+K}{K \cosh kh - k \sinh kh} &= \frac{1}{\cosh kh} + \frac{k(1 + \tanh kh)}{K \cosh kh - k \sinh kh} \\ &= \frac{1}{\cosh kh} + \frac{k e^{kh}}{(K \cosh kh - k \sinh kh) \cosh kh}, \quad (5) \end{aligned}$$

である事を考慮すると (3) は

$$S(P, Q) = I + \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} \frac{\cosh k(h-y) \cosh k(h-y') \cos k(x-x')}{(K \cosh kh - k \sinh kh) \cosh kh} dk, \quad (6)$$

$$I = \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} e^{-k(h-y) + ky} \cosh k(h-y') \cos k(x-x') \frac{dk}{k} \times$$

$$\times \left[\frac{\cosh k(h-y)}{\cosh kh} - e^{ky} \right],$$

右辺第 2 項は対称項である。

より

$$\cosh k(h-y) - e^{ky} \cosh kh = -e^{ky} \sinh ky,$$

と左から

$$I = -\frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} \frac{\sinh k y}{\cosh k h} \frac{1}{\cosh k(h-y')} \cos k(x-x') \frac{dk}{k}, \quad (7)$$

となり、この式から I は $y=0$ での値と等しいとある事がわかる。
 I の値を求めたい積分が存在しないので、それを y を微分したものを
 積分して見よう。

$$I_y = -\frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} \frac{\cosh k y}{\cosh k h} \cosh k(h-y') \cos k(x-x') dk$$

$$= -\frac{1}{2\pi} \int_0^{\infty} \frac{\cos k(x-x')}{(1+e^{-2kh})} \left[e^{k(y-y')} + e^{-k(y+y')} + e^{-2kh} (e^{k(y+y')} + e^{-k(y-y')}) \right] dk, \quad (8)$$

と書けるか

$$\frac{1}{1+e^{-2kh}} = \sum_{n=0}^{\infty} (-1)^n e^{-2nhk}$$

とあるから 別変換

$$\int_0^{\infty} \frac{e^{-k(y-y')}}{1+e^{-2kh}} \cos k(x-x') dk = \sum_{n=0}^{\infty} (-1)^n \int_0^{\infty} e^{-k(y-y')-2nhk} \cos k(x-x') dk$$

$$= \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n (y'-y+2nh)}{(x-x')^2 + (y'-y+2nh)^2} = \int \left[\sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{z - z' - 2nh i} \right]$$

$$z = x + iy, \quad z' = x' + iy'$$

となるので

$$I_y = -\frac{1}{2\pi} \sum_{n=-\infty}^{\infty} (-1)^n \left[\frac{y'-y+2nh}{(x-x')^2 + (y'-y+2nh)^2} + \frac{y'+y+2nh}{(x-x')^2 + (y'+y+2nh)^2} \right], \quad (9)$$

となるか

$$\frac{1}{\sinh t} = \sum_{n=-\infty}^{\infty} \frac{(-1)^n}{t - n\pi}$$

なる形が 1 かあるの??

$$\frac{1}{\sinh \frac{\pi z}{2h}} = \frac{2h}{\pi} \sum_{n=-\infty}^{\infty} \frac{(-1)^n}{z - 2nh i}$$

$$\int \left\{ \frac{\pi}{2h \sinh(\frac{\pi z}{2h})} \right\} = \sum_{n=-\infty}^{\infty} \frac{(-1)^n (2nh - y)}{x^2 + (y - 2nh)^2},$$

これを利用して

$$I_y = -\frac{1}{4h} \int \left[\frac{1}{\sinh \frac{\pi(z-z')}{2h}} - \frac{1}{\sinh \frac{\pi(z-\bar{z}')}{2h}} \right], \quad (10)$$

y で積分して

$$I = \frac{1}{2\pi} \operatorname{Re} \log \left[\frac{\tanh \frac{\pi}{4h}(z-z')}{\tanh \frac{\pi}{4h}(z-\bar{z}')} \right], \quad (11)$$

$$z = x + iy, \quad z' = x' + iy'$$

を得る。

次に

$$S(p, \alpha) = I + S_1(p, \alpha), \quad (12)$$

と置いて S_1 について考えよう。

S_1 の複積分関数は長の偶関数であるから

$$S_1 = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \frac{\cosh k(h-y) \cosh k(h-y') \cos k(x-y)}{(K \cosh kh - k \sinh kh) \cosh kh} dk, \quad (13)$$

と書ける。

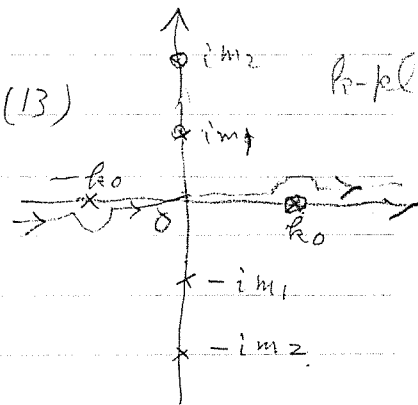
停留点はすべて、1 位の極で

$$K = k \tanh kh, \quad (14)$$

の根長の間であるから、実軸上には $\pm k_0$ 、虚軸上には $\pm im_1$ と無限個ある。

$$\left. \begin{aligned} K &= k_0 \tanh(k_0 h), \\ K &= -m_n \tan(m_n h), \end{aligned} \right\} \quad (15)$$

S のもう一つの条件として、 y が外に出て行くというのを満足するには、実軸上の極を 1 位の極のようによける積分路をとるべきである。



この一群の特異点は分母の $\cosh kh$ の $z = \pm i$

$$k = \pm \frac{i\pi}{2h} (2n+1) \quad \text{for } n=0, 1, 2, \dots \quad (16)$$

である。
 $z = \pm i$

$$S_1 = I_1 + S_2 \quad \dots \quad (17)$$

とある I_1 を (16) による I_k S_2 を (14), (15) による S_2 とすると
 すると I_1 は

$$\sinh kh = \pm i (-)^n$$

であるから

$$I_1 = \frac{2}{\pi} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\sin \frac{\pi}{2h} (2n+1) y}{(2n+1)} \sin \left\{ \frac{\pi}{2h} (2n+1) x' \right\} e^{-\frac{\pi}{2h} (2n+1) (x-x')} \quad \dots \quad (18)$$

for $x > x'$

を得るから I を求めるべきと (18) 式に

$$\frac{1}{\sinh \frac{\pi}{2h} z} = 2 \sum_{n=0}^{\infty} e^{-\frac{\pi}{2h} (2n+1) z}$$

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{e^{-\frac{\pi}{2h} z (2n+1)}}{2n+1} = -\frac{1}{2} \log \left(\tanh \frac{\pi z}{4h} \right)$$

であるから

$$I_1 = \frac{1}{4\pi} \log \left[\frac{\tanh \frac{\pi}{4h} (z - \bar{z}') \tanh \frac{\pi}{4h} (\bar{z} - z')}{\tanh \frac{\pi}{4h} (z - z') \tanh \frac{\pi}{4h} (\bar{z} - \bar{z}')} \right] \quad \dots \quad (19)$$

$$\text{or } I_1 = \text{Re} \frac{1}{2\pi} \log \left[\frac{\tanh \frac{\pi}{4h} (z - \bar{z}')}{\tanh \frac{\pi}{4h} (z - z')} \right] = -I_2$$

$z > z'$

$$S_1(P, Q) = S_2(P, Q), \quad \dots \quad (20)$$

∴ S_2 は

$$\frac{d}{dk} (K \cosh kh - k \sinh kh) = (Kh - 1) \sinh kh - kh \cosh kh$$

∴ (14) を代 入 732

$$\frac{d}{dk} (K \cosh kh - k \sinh kh) = \frac{1}{k} \{ (K^2 - k^2)h - K \} \cosh kh, \quad (21)$$

∴ 3 から

$$S = S_2 = - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{m_n \cos m_n(h-y) \cos m_n(h-y')}{[(K^2 + m_n^2)h - K] \cos^2 m_n h} e^{-m_n|x-x'|}$$

$$- i \frac{k_0 \cosh k_0(h-y) \cosh k_0(h-y')}{[(K^2 - k_0^2)h - K] \cosh^2 k_0 h} e^{-i k_0|x-x'|}, \quad \dots (22)$$

をうる。

特異点 $y = y' = 0$ ∴ 14

$$S(P, Q) \Big|_{y=y'=0} = S_2(P, Q) \Big|_{y=y'=0}$$

$$= - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{m_n e^{-m_n|x-x'|}}{[(K^2 + m_n^2)h - K]} - \frac{i k_0 e^{-i k_0|x-x'|}}{[(K^2 - k_0^2)h - K]}, \quad (23)$$

のように $\frac{1}{h}$ 量と存在。

又 よく知られて いる ように (15) の 1/2 は

$h \rightarrow \infty$ ∴ 14 $k_0 \equiv K, \quad \dots (24)$

m_n ($z \rightarrow 0$) は $m_n h = \frac{\pi}{2}(2n-1) + \delta_n, \quad n=1, 2, 3, \dots$

と おく と

$$Kh = (n\pi - \frac{\pi}{2} + \delta_n) \cot \delta_n$$

よる。

$$\delta_n \equiv \frac{(n - \frac{1}{2})\pi}{Kh}$$

$$m_n \equiv \frac{(n - \frac{1}{2})\pi}{h} \left(1 + \frac{1}{Kh} \right), \quad \dots (25)$$

$h \rightarrow 0$ では

$$k_0 \doteq \sqrt{\frac{K}{h}} = \frac{\omega}{\sqrt{gh}} \quad (26)$$

また $m_n = n\pi - \delta_n, n=1, 2, 3, \dots$

よって $kh = (n\pi - \delta_n) \tan \delta_n,$

よって $\delta_n \doteq \frac{kh}{n\pi}$

$$m_n \doteq \frac{n\pi}{h} - \frac{k}{n\pi} \quad (27)$$

よって

S の $h \rightarrow 0$ or $h \rightarrow \infty$ の極限は (11), (12), (13) から

$$S(P, Q) \xrightarrow{h \rightarrow \infty} \frac{1}{2\pi} \operatorname{Re} \int \left(\frac{z-z'}{z-z''} \right) + \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} \frac{e^{-k(y+y')}}{k-k_0} \cos k(x-x') dk \quad (28)$$

この場合 k -plane の極は左右対称となるのでこのように表示になる。

$h \rightarrow 0$ では

$$S(P, Q) \xrightarrow{h \rightarrow 0} + \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \frac{\cos k(x-x')}{k-k_0^2 h} dk = \frac{e^{-i k_0 |x-x'|}}{2 h k_0} \quad (29)$$

$k_0 = \omega/\sqrt{gh}$

よって特異点は消えてしまう形になり具合が急激なので $h \rightarrow 0$ の極限では別の平浅水近似*として扱おう。

なお $|x-x'| \rightarrow \infty$ では (22) から明らかになるように

$$S(P, Q) \xrightarrow{|x-x'| \gg 1} \frac{-i k_0 e^{-i k_0 |x-x'|}}{[(k-i k_0)h - k]} \times \frac{\cosh k_0(h-y) \cosh k_0(h-y')}{\cosh^2 k_0 h} \quad (30)$$

で他の項は指数的に減衰する。

* J.J. Stoker "Water Waves"

S は $P=Q$ で 2 数の特異点を有するのだから値計算ではその共役関数 T を使うのが便利である。
 合

$$\begin{cases} S_x(P, Q) = T_y(P, Q) \\ S_y(P, Q) = -T_x(P, Q) \end{cases} \quad (31)$$

のような T を求めると、述べる。

$$\begin{aligned} T(P, Q) = & \left[- \sum_{n=1}^{\infty} \frac{m_n \sin m_n(h-y) \cos m_n(h-y') e^{-m_n|x-x'|}}{[(k^2 + m_n^2)h - k] \cos^2 m_n h} \right. \\ & \left. + \frac{k_0 \sinh k_0(h-y) \cosh k_0(h-y') e^{-i k_0|x-x'|}}{[(k^2 - k_0^2)h - k] \cosh^2 k_0 h} \right] \operatorname{sgn}(x-x') \end{aligned} \quad (32)$$

又 (32)

$$\begin{aligned} T(P, Q) \Big|_{y=y'=0} = & k \left[\sum_{n=1}^{\infty} \frac{k_n e^{-m_n|x-x'|}}{[(k^2 + m_n^2)h - k]} \right. \\ & \left. + \frac{e^{-i k_0|x-x'|}}{[(k^2 - k_0^2)h - k]} \right] \operatorname{sgn}(x-x'), \end{aligned} \quad (33)$$

よって

$$T \Big|_{\substack{y=y'=0 \\ x \rightarrow x'}} = k \left[\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(k^2 + m_n^2)h - k} + \frac{1}{(k^2 - k_0^2)h - k} \right] \operatorname{sgn}(x-x'), \quad (34)$$

となる。 $x=x'$ で jump が有り、 $(x-x')$ は 1/2 奇関数である。

昭和 年 月 日

附録 B 梁の撓み振動の正規関数*

$$\frac{d^4}{dx^4} \eta(x) - \left(\frac{m}{z}\right)^4 \eta(x) = 0, \quad (1)$$

$$K_n L = \frac{\omega_n^2}{g} L = \left(\frac{EI}{WL^2}\right) m_n^4, \quad \dots (2)$$

$L=2$

正規関数の正規化直交系を $u_n(x)$ とすると

$$\begin{cases} u_0 = \frac{1}{\sqrt{2}} \\ u_1 = \sqrt{\frac{3}{2}} x \end{cases} \quad (3)$$

$$\begin{cases} u_{2n}(x) = A_{2n} \cos \frac{m_{2n}}{2} x + B_{2n} \cosh \frac{m_{2n}}{2} x \\ u_{2n+1} = A_{2n+1} \sin \frac{m_{2n+1}}{2} x + B_{2n+1} \sinh \frac{m_{2n+1}}{2} x \end{cases} \quad (4)$$

$$u_n''(\pm 1) = u_n''(x-1) = 0, \quad (5)$$

$$\frac{B_{2n}}{A_{2n}} = \frac{\cos \frac{m_{2n}}{2}}{\cosh \frac{m_{2n}}{2}} = -\frac{\sin \frac{m_{2n}}{2}}{\sinh \frac{m_{2n}}{2}}, \quad B_{2n} = \frac{1}{\sqrt{2} \cosh \frac{m_{2n}}{2}} \frac{\sqrt{2}}{e^{\frac{m}{2}} + e^{-\frac{m}{2}}}$$

$$\frac{B_{2n+1}}{A_{2n+1}} = \frac{\sin \frac{m_{2n+1}}{2}}{\sinh \frac{m_{2n+1}}{2}} = \frac{\cos \frac{m_{2n+1}}{2}}{\cosh \frac{m_{2n+1}}{2}}, \quad B_{2n+1} = \frac{1}{\sqrt{2} \sinh \frac{m_{2n+1}}{2}}$$

(6)

固有値方程式は

$$\begin{cases} \tan \frac{m_{2n}}{2} = -\tanh \frac{m_{2n}}{2} \\ \tan \frac{m_{2n+1}}{2} = \tanh \frac{m_{2n+1}}{2} \end{cases} \quad (7)$$

$$\text{or} \quad \cos m_n \cosh m_n = 1, \quad \mu = \frac{m}{2}$$

* 参考文献: 工業振動学

$\int_0^1 U_n^2 dx = 1$ と仮定して A_n を決めよう。

$$\int_0^1 U_{2n}^2 dx = A_{2n}^2 \left(1 + \frac{\sin 2m}{2m}\right) + B_{2n}^2 \left(1 + \frac{\sin 2m}{2m}\right) + \frac{4AB}{m} \left(\sin \frac{m}{2} \cos \frac{m}{2} + \cos \frac{m}{2} \sin \frac{m}{2}\right)$$

$$= A_{2n}^2 \left[1 + \frac{\sin 2m}{2m} + \frac{\cos^2 \frac{m}{2}}{\cos^2 \frac{m}{2}} \left(1 + \frac{\sin 2m}{2m}\right)\right]$$

$$= A_{2n}^2 \left[1 + \frac{\sin 2m}{2m} + \cos m \left(1 + \frac{\sin 2m}{2m}\right)\right] = 1$$

$$\tan m = \frac{2 \tan \frac{m}{2}}{1 - \tan^2 \frac{m}{2}} = \frac{-2 \operatorname{th} \frac{m}{2}}{1 - \operatorname{th}^2 \frac{m}{2}} = -\operatorname{sh} m$$

$$\therefore A_{2n}^2 = \frac{1}{1 + \cos m} = \frac{1}{2 \cos^2 \frac{m}{2}}, \quad A_{2n} = \frac{1}{\sqrt{2} \cos \frac{m}{2}} \quad (8)$$

$$\int_0^1 U_{2n+1}^2 dx = A_{2n+1}^2 \left(1 - \frac{\sin 2m}{2m}\right) + B_{2n+1}^2 \left(\frac{\sin 2m}{2m} - 1\right)$$

$$+ \frac{4}{m} AB \left(\sin \frac{m}{2} \cos \frac{m}{2} - \cos \frac{m}{2} \sin \frac{m}{2}\right)$$

$$= A_{2n+1}^2 \left[1 - \frac{\sin 2m}{2m} + \cos m \left(\frac{\sin 2m}{2m} - 1\right)\right] = 1$$

$$\tan m = \frac{2 \tan \frac{m}{2}}{1 - \tan^2 \frac{m}{2}} = \operatorname{sh} m$$

$$\therefore A_{2n+1}^2 = \frac{1}{1 - \cos m} = \frac{1}{2 \sin^2 \frac{m}{2}} \quad (9)$$

$$A_{2n+1} = \frac{1}{\sqrt{2} \sin \frac{m}{2}}$$

$$m_2 = 2.36502$$

$$m_3 = 3.92660$$

$$m_4 = 5.49781$$

$$m_5 = 7.06859$$

$$m_5 = 14.13717$$

$$\frac{m_2}{2} = 2$$

(10)

$$m_n = \frac{1}{2} (2n-1)\pi$$

$$h f_{n,m} = \left(\frac{2}{m\pi}\right)^2 \int_{-1}^1 u_n'' u_m dx, \quad (11)$$

$$h f_{2n,2m} = \left(\frac{2}{m\pi}\right)^2 \int_{-1}^1 (-A_n \cos nx + B_n \sin nx)(A_m \cos mx + B_m \sin mx) dx.$$

$n = \frac{m_{2n}}{2}, m = \frac{m_{2m}}{2}.$

$$= \frac{1}{\pi^2} \int_{-1}^1 (-u_n + 2B_n \sin nx) u_m dx = -\frac{\delta_{n,m}}{\pi^2} + \frac{2B_n}{\pi^2} \int_{-1}^1 \sin nx u_m dx.$$

$$\int_{-1}^1 \sin nx \cos mx dx = \frac{2 \sin n \cos m}{n} + \frac{m}{n} \int_{-1}^1 \sin nx \sin mx dx$$

$$= \frac{2}{n} \sin n \cos m + \frac{2m}{n^2} \sin n \sin m - \frac{m^2}{n^2} \int_{-1}^1 \sin nx \cos mx dx$$

$$= \frac{2}{n^2 + m^2} (n \sin n \cos m + m \sin n \sin m)$$

$$= \frac{2 \sin n \cos m}{n^2 + m^2} (n \tan n + m \tan m)$$

$$\int_{-1}^1 \sin nx \sin mx dx = \frac{2 \sin n \sin m}{n} - \frac{m}{n} \int_{-1}^1 \sin nx \cos mx dx$$

$$= \frac{2}{n} \sin n \sin m - \frac{2m}{n^2} \sin n \sin m + \frac{m^2}{n^2} \int_{-1}^1 \sin nx \cos mx dx$$

$$= \frac{2 \sin n \sin m}{n^2 - m^2} [n \tan n - m \tan m] \xrightarrow{n=m} 1 + \frac{\sin n \cos n}{n}$$

$$h f_{2n,2m} = -\frac{\delta_{n,m}}{\pi^2} + \frac{4}{\pi^2 \sqrt{2}} \left[\frac{1}{n^2 + m^2} (n \tan n - m \tan m) + \frac{1}{n^2 - m^2} (n \tan n - m \tan m) \right]$$

$$= -\frac{\delta_{n,m}}{\pi^2} + \frac{4}{\pi^2 - m^4} (n \tan n - m \tan m), \quad (12)$$

$$h f_{2n} = \frac{1}{\pi^2} \int_{-1}^1 (u_n - 2A_n \cos nx) u_n dx = \frac{1}{\pi^2} \left[\int_{-1}^1 u_n^2 dx \right] - \frac{2A_n}{\pi^2} \int_{-1}^1 \cos nx u_n dx$$

$$\int_{-1}^1 \cos nx \cos mx dx = \frac{2Am \cos m}{n} + \frac{m}{n} \int_{-1}^1 \cos nx \cos mx dx$$

$$= \frac{2}{n} A_1 \cos m - \frac{2m}{n^2} \cos h A_1 m + \frac{m^2}{n^2} \int_{-1}^1 \cos nx \cos mx dx$$

$$= \frac{2 \cosh h \cos m}{n^2 - m^2} (n \tanh - m \tanh m) + \frac{2m^2 \cosh h}{n^2 - m^2}$$

$$\therefore h_{2n, 2m} = \frac{\delta_{2n, 2m}}{n^2} - \frac{2}{n^2} \times \left[\frac{1}{n^2 - m^2} (m \tanh m - n \tanh) + \frac{1}{n^2 + m^2} (m \tanh m - n \tanh) \right]$$

$$= \frac{\delta_{2n, 2m}}{n^2} - \frac{4}{n^2 - m^2} (n \tanh - m \tanh m), \quad (13)$$

整理

$$\therefore h_{2n, 2m} = \frac{4}{n^2 - m^2} (n \tanh n - m \tanh m), \quad \text{for } n \neq m. \quad (14)$$

$$h_{2n, 2n} = \frac{\tanh n}{n^2} \left(\frac{1}{n} - \tanh n \right), \quad \text{for } n = m.$$

ここで $n = \frac{W_{2n}}{2}, m = \frac{W_{2m}}{2}$

$$h_{2n+1, 2m+1} = \frac{1}{n^2} \int_{-1}^1 (-U_n + 2B_n \sinh x) (A_m \sin mx + B_m \cosh mx) dx$$

$$= -\frac{\delta_{2n+1, 2m+1}}{n^2} + \frac{2}{n^2} B_n \int_{-1}^1 \sinh x U_m dx$$

$n = \frac{W_{2n+1}}{2}, m = \frac{W_{2m+1}}{2}$

$$\int_{-1}^1 \sinh x U_m dx = \frac{1}{m^4} \int_{-1}^1 \sinh x U_m^{(4)} dx = \frac{1}{m^4} \left[U_m^{(3)} \cosh x - m^3 U_m^{(2)} \sinh x \right]_{-1}^1$$

$$= \frac{2}{m^4} \left[U_m^{(3)}(1) \cosh 1 - m^3 U_m^{(2)}(1) \sinh 1 + m^3 U_m^{(2)}(-1) \sinh 1 - U_m^{(3)}(-1) \cosh 1 \right] + \frac{n^4}{m^4} \int_{-1}^1 U_m \sinh x dx$$

$$= \frac{\sqrt{2}}{m^4 - n^4} \left[mn^2 \cosh m (\cot m + \coth m) - 2n^3 \cosh n \right]$$

$$\therefore h_{2n+1, 2m+1} = -\frac{\delta_{2n+1, 2m+1}}{n^2} + \frac{4}{m^4 - n^4} \left[m \coth m - n \coth n \right], \quad (15)$$

$$\lambda = m^2 \pi^2 \quad \int_0^1 \sin^2 nx \, dx = \int_0^1 (1 - \cos 2nx) \, dx = 1 - \frac{\sin 2n}{2n}$$

$$\int_0^1 \cosh^2 nx \, dx = \int_0^1 (\cosh 2nx + 1) \, dx = \frac{\sinh 2n}{2n} + 1$$

$$\begin{aligned} h f_{2n+1, 2m+1} &= \frac{1}{2h^2} \left[\frac{1}{\sinh^2 n} \left(\frac{\sinh n \cosh n}{n} - 1 \right) - \frac{1}{\sinh^2 h} \left(1 - \frac{\sinh h \cosh h}{h} \right) \right] \\ &= \frac{\coth n}{n^2} \left(\frac{1}{n} - \coth n \right), \quad \text{for } n = m, \quad (16) \end{aligned}$$

$$\text{d. 22} \quad h f_{2n+1, 2m+1} = \frac{4}{n^4 - m^4} [n \coth n - m \coth m], \quad \text{for } n \neq m, \quad (17)$$

上の n, m は $n = \frac{M(2n+1)}{2}, m = \frac{M(2m+1)}{2}$

$$\begin{aligned} h f_{2n, 0} &= \frac{1}{\sqrt{2}} \left(\frac{2}{m_{2n}} \right)^4 \int_{-1}^1 U_{2n}'' \, dx = \sqrt{2} \left(\frac{2}{m_{2n}} \right)^4 U_{2n}'(1) = \\ &= \left(\frac{2}{m_{2n}} \right)^4 \left(-\tanh \frac{m_{2n}}{2} - \tan \frac{m_{2n}}{2} \right) = 2 \left(\frac{2}{m_{2n}} \right)^4 \tanh \frac{m_{2n}}{2}, \quad (18) \end{aligned}$$

$$h f_{2n+1, 0} = \sqrt{\frac{2}{3}} \left(\frac{2}{m_{2n+1}} \right)^4 \int_{-1}^1 U_{2n+1}'' \, x \, dx = \frac{2}{\sqrt{3}} \left(\frac{2}{m_{2n+1}} \right)^4 \left(m_{2n+1} \coth \frac{m_{2n+1}}{2} - 2 \right)$$

$$\begin{aligned} \int_{-1}^1 U_{2n+1}'' \, x \, dx &= x U_{2n+1}' \Big|_{-1}^1 - \int_{-1}^1 U_{2n+1}' \, dx = 2 \left[U_{2n+1}'(1) - U_{2n+1}'(-1) \right] \\ &= \sqrt{2} \left[\left(\frac{m}{2} \right) \left\{ \cot \frac{m}{2} + \coth \frac{m}{2} \right\} - 2 \right] = \sqrt{2} (m \coth \frac{m}{2} - 2) \end{aligned}$$

$$h f_{2n+1, 1} = \frac{4}{\sqrt{3}} \left(\frac{2}{m_{2n+1}} \right)^3 \left(\coth \frac{m_{2n+1}}{2} - \frac{2}{m_{2n+1}} \right), \quad (19)$$

$$\frac{m_2}{2} = 2.86502, \quad \text{th } \frac{m_2}{2} = -\tan \frac{m_2}{2} = .98250$$

$$\frac{m_4}{2} = 5.49781, \quad \text{th } \frac{m_4}{2} = .999954$$

8.90

$$m_{3/2} = 3.92660, \quad \text{coth } \frac{m_3}{2} = \cot \frac{m_3}{2} = 1.000782$$

$$m_{15/2} = 7.06859, \quad \text{coth } \frac{m_5}{2} = \cot \frac{m_5}{2} = 1.0000$$

$$h_{f_{2,0}} = 2 \left(\frac{2}{m_2} \right)^4 \text{th } \frac{m_2}{2} = 2 (2.86502)^{-4} \cdot .9825 = .062809$$

$$h_{f_{2,2}} = \left(\frac{2}{m_2} \right)^2 \text{th } \frac{m_2}{2} \left(\frac{2}{m_2} - \text{th } \frac{m_2}{2} \right) = .796424 (.422829 - .9825) = -.109933$$

$$h_{f_{2,4}} = \frac{4}{\left(\frac{m_2}{2} \right)^4 - \left(\frac{m_4}{2} \right)^4} \left(\frac{m_2}{2} \text{th } \frac{m_2}{2} - \frac{m_4}{2} \text{th } \frac{m_4}{2} \right) = \frac{13.173923}{228.5848} = .057885$$

$$h_{f_{4,0}} = 2 \left(\frac{2}{m_4} \right)^4 \text{th } \frac{m_4}{2} = .0021870$$

$$h_{f_{4,4}} = \left(\frac{2}{m_4} \right)^2 \text{th } \frac{m_4}{2} \left(\frac{2}{m_4} - \text{th } \frac{m_4}{2} \right) = -.027064$$

$$h_{f_{3,1}} = \frac{4}{\sqrt{3}} \left(\frac{2}{m_3} \right)^3 \left(\text{coth } \frac{m_3}{2} - \frac{2}{m_3} \right) = .0853833$$

$$h_{f_{3,3}} = \left(\frac{2}{m_3} \right)^2 \text{coth } \frac{m_3}{2} \left(\frac{2}{m_3} - \text{coth } \frac{m_3}{2} \right) = -.0484293$$

$$h_{f_{3,5}} = \frac{4}{\left(\frac{m_3}{2} \right)^4 - \left(\frac{m_5}{2} \right)^4} \left(\frac{m_3}{2} \text{coth } \frac{m_3}{2} - \frac{m_5}{2} \text{coth } \frac{m_5}{2} \right) = .00555862$$

$$h_{f_{5,1}} = \frac{4}{\sqrt{3}} \left(\frac{2}{m_5} \right)^3 \left(\text{coth } \frac{m_5}{2} - \frac{2}{m_5} \right) = .00561398$$

$$h_{f_{5,5}} = \left(\frac{2}{m_5} \right)^2 \text{coth } \frac{m_5}{2} \left(\frac{2}{m_5} - \text{coth } \frac{m_5}{2} \right) = -.0171826$$

m	0	2	4
2	20	22	24
4	40	42	44

3	31	32	34
5	51	53	55

h